

研究・調査報告書

報告書番号	担当
26	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳)	
<p>Maternal lifestyle factors in pregnancy risk of attention deficit hyperactivity disorder and associated behaviors: review of the current evidence. ADHD (注意欠陥多動性障害) 児リスクと妊娠母の生活習慣要因および関連行動：レビュー</p>	
執筆者	
<p>Linnet KM, Dalsgaard S, Obel C, Wisborg K, Henriksen TB, Rodriguez A, Kotimaa A, Moilanen I, Thomsen PH, Olsen J, Jarvelin MR.</p>	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
<p>Am J Psychiatry 2003; 160 (6): 1028-40.</p>	
キーワード	
<p>注意欠陥多動性障害、妊娠、タバコ、アルコール、カフェイン</p>	
要旨	
<p>目的：胎児期のニコチン・アルコール・カフェインへの暴露と、妊娠中の社会心理的ストレスとの間に、幼児期の ADHD (注意欠陥多動性障害) 発現リスクに対する相関があるかどうかを検討した。</p>	
<p>方法：メタアナリシス</p>	
<p>結果：ニコチンに関する研究は 24, アルコールは 9, カフェインは 1, 社会心理的ストレスについては 5つの研究が見つかった。すべて 1973 年から 2002 年の研究である。ニコチンに関する研究では、母親が妊娠中に喫煙をしていた児で ADHD 関連性障害のリスクが非常に高いことが示されていた。しかしアルコールに関する研究では逆の知見が報告されているとともに、カフェインに関する研究を元にしては結論は見出せなかった。妊娠中の社会心理的ストレスに関する研究からの結果には一貫性は見られなかったが、児における ADHD 兆候への中等度の寄与可能性があることが示唆された。</p>	
<p>結論：子宮内でのタバコ煙への暴露が児の ADHD および ADHD 兆候に関連していると疑われる。妊娠母の他の生活習慣因子もまたこれらの障害に関連している可能性がある。</p>	